

平成14年度 SPARC/ISCA プロジェクトチーム活動報告

1. 国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC/JAPAN) への対応

本事業の概要については別紙「国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC/JAPAN) 実施計画 (案)」等を参照。

(1) 準備会議等への参画

○国立情報学研究所 (NII) との打合せ会議

- ・平成14年8月12日、東京大学附属図書館で開催。NIIと国大図協から関係者が出席。
- ・NIIから平成15年度概算要求する同事業計画の概要を説明。
- ・実施に当たっては、事業全体への参画、特に支援する国内電子ジャーナルのビジネスモデルの作成、大学(図書館)への販売促進、国内研究者への広報・宣伝等についてNIIから大学図書館側に協力を要請。基本的にこれを了解。

○第1回準備会議

- ・平成14年12月26日、NIIで開催。NII、JST、学会事務センター、2学会、国大図協(土屋、京藤、平元、栃谷)から代表者が出席。
- ・本事業のため平成15年度に約1億円の予算が計上される見通しについて報告。
- ・事業実施のための組織体制、具体的な取組み方策、スケジュール等について懇談。

第2回準備会議

- ・平成15年2月21日、NIIで開催。出席者は前回とほぼ同じ(土屋、京藤)。
- ・組織体制、事業計画、当面のスケジュールについて検討した。
- ・J-STAGEの改造スケジュールが紹介された。

○第3回準備会議

- ・平成15年3月12日、NIIで開催。出席者は前回とほぼ同じ(土屋、京藤)。
- ・文部科学省への事業概要説明、米国SPARCとの相互協力に関する協議等について経過報告があった。
- ・支援する学会誌の公募要領、支援の内容、J-STAGEの問題点等について検討した。

○国内学会誌関係者と国大図協 SPARC/ISCA プロジェクト/電子ジャーナル・タスクフォース・メンバーとの合同懇談会

- ・平成15年3月24日、東京大学附属図書館で開催。学会事務センター、日本動物学会、日本化学会、国大図協・EJタスクフォース、S/Iプロジェクト・メンバーの代表者、関係者が出席。
- ・電子ジャーナルのサイトライセンス・モデルを中心に懇談。

○第4回準備会議

- ・平成15年3月27日、NIIで開催。出席者は前回とほぼ同じ(土屋、京藤)。

- ・J-STAGE への改善要望事項への対応状況について JST から説明。また、J-SATGE 2 のサービス開始計画について本事業計画との調整を図ることを確認。
- ・公募趣意書及び公募要領案について検討。

○第 5 回準備会議

- ・平成 15 年 4 月 11 日、NII で開催。出席者は前回とほぼ同じ（土屋、京藤）。
- ・4 月 8 日になされた文部科学省説明について報告があった。
- ・評議員候補者への説明日程、ビジネスコンサルタントの在り方、公募要領（案）等、事業開始のための準備事項について検討した。

○第 6 回準備会議

- ・平成 15 年 4 月 23 日、NII で開催。国大図協出席者：土屋
- ・4 月 18 日の文部科学省説明、JST の見学結果等について報告があった。
- ・ビジネスコンサルタントの在り方、公募要領（案）について検討した。
- ・今後の予定：6 月下旬に第 1 回評議会。その後に SPARC/JAPAN 説明会を企画。

(2) 海外実地調査への参加

目的：国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC/JAPAN）実施のための海外実地調査及び関係団体（機関）等との協議

派遣者（第 2 班 SPARC 関係）：NII：3 名，国大図協：2 名（土屋，京藤）

期間：平成 15 年 1 月 26 日～2 月 2 日

訪問先：SPARC 本部、BioOne 事務局、コーネル大学（Project Euclid, e-arXive）
米国議会図書館

2. その他

(1) 国際図書館コンソーシアム連合（ICOLC）への対応

○第 12 回ナッシュビル会議への参加者派遣

派遣者：尾城孝一（千葉大学・情報サービス課長）

時期：2002 年 9 月 19 日～21 日

場所：米国ナッシュビル（Marriott at Vanderbilt University）

議事内容：『大学図書館研究』67 号（2003.3）参照

○第 13 回ラスベガス会議への参加者派遣

時期：2003 年 3 月 27 日～28 日

場所：米国ラスベガス（Alexis Park）

尾城孝一（千葉大学・情報サービス課長）及び井上修（東京工業大学・情報管理課専門員）の派遣を予定していたが、国際情勢緊迫化のため派遣中止。

(2) ISCA への対応

特に進展なし。

(3) 国大図協シンポジウム

時期：平成14年11月26日～27日（東地区）

平成14年12月5日～6日（西地区）

場所：千葉大学（東地区）、九州大学（西地区）

テーマ：国際学術コミュニケーションの展開と展望

本プロジェクト関係の発表：

「国際学術コミュニケーションの現状と展望」(土屋千葉大学教授)

「SPARC/JAPAN 活動と今後の取り組み」(安達NII情報学資源研究センター長)

「SPARC: Advocacy in Scholarly Communication」(Alison Buckholtz)

3. 今後の活動予定（案）

(1) 国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC/JAPAN）への対応

○評議会、運営委員会等への正式参加

国大図協から会長が評議会委員として、国際学術コミュニケーション特別委員会から土屋会長補佐ほか2名が運営委員会委員として参加することになっている。

○支援対象となる国内電子ジャーナルのビジネスモデル作成のため、関係学会、学会事務センター、JST等と協議する。（電子ジャーナル・タスクフォースとも連携して具体的な導入契約についても検討する。）

○NIIと協力して本事業に関する宣伝・広報活動を行う。

・シンポジウム、講演会等の開催

・学内研究者への宣伝活動

・SPARC/JAPAN ホームページの開設（NIIとの役割分担が必要）

○国際学術コミュニケーションの動向調査（NIIとの役割分担が必要）

(2) ICOLCへの対応

大学図書館協力委員会と連携して会議への参加者派遣を継続する。

(3) ISCA等への対応

ISCAに限定せず、Open Access, Institutional Repository等の国際的な動向について調査し、適宜対応する。